

☆年間第3主日(1月21日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (ヨナの預言 3章 1-5, 10 節)

主の言葉が再びヨナに臨んだ。

「さあ、大いなる都ニネベに行って、わたしがお前に語る言葉を告げよ。」

ヨナは主の命令どおり、直ちにニネベに行った。

ニネベは非常に大きな都で、一回りするのにも三日かかった。

ヨナはまず都に入り、一日分の距離を歩きながら叫び、そして言った。

「あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。」

すると、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者も低い者も身に粗布をまとった。

神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくださのをやめられた。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 7章29-31 節)

兄弟たち、わたしはこう言いたい。定められた時は迫っています。

今からは、妻のある人はない人のように、泣く人は泣かない人のように、喜ぶ人は喜ばない人のように、物を買う人は持たない人のように、世の事にかかわっている人は、かかわりのない人のようにすべきです。この世の有様は過ぎ去るからです。

福音朗読 (マルコによる福音書 1章 14-20 節)

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、時は満ち、神の国は近づいた。「悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。

二人はすぐに網を捨てて従った。また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

今日はキリスト教一致祈禱週間の間の主日で、フランシスコ教皇様はこの日を「神のことばの主日」と定められました。神のことばを聞き、学び、それを広め、それに生きることを考える日です。神のことばは私たちの信仰の糧であり、祈りの源泉です。ミサの間に聞く神のことばをもう少し味わうようにしましょう。今日はちなみに説教のあと数分間静かにしてみ言葉を味わってみましょう。教会は年間の主日を通して社会的な要請や教会の望みなどを考慮して、主日の特徴を出しています。それにより今の教会が何を大事に考えているかがわかります。

第一朗読（ヨナの預言 3章 1-5, 10節）

ヨナ預言者はどの預言者よりも人間的で、その言動は正直そのものです。嫌なことは逃げまくりです。でも、神に声を掛けられ続け、根負けしてしまうのです。自分が告げる神から託された言葉を恐れずに伝え続けます。預言者の語る神のことばは多くの場合神からの警告が多いようです。多くの人にとって聞きたくない言葉です。現代では聖霊が私たちの心に語り掛けてくださいます。聴きたくないでしようが、大事な警告と考えましょう。

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 7章29-31節）

パウロの時代のコリントの教会ではキリストの再臨は近いと考えていたようで、そのための心の在り方が述べられています。現代ではキリストの再臨についてはすぐにとは考えていないようですが、私たち個人にとってはキリストの前に立つ日はそんなに遠い話ではないのです。ですからパウロはこの世のことにかかりすぎてしまわないように勧めているのです。この世の有様

は私の救いにとってはあてにならないからです。

福音朗読（マルコによる福音書 1章 14-20節）

今日もマルコによる福音が読まれ、イエスが本格的に宣教活動を始められたことが告げられています。神の子羊イエスを指し示した洗礼者ヨハネはヘロデ王に逮捕され殉教して行くのです。両者の入れ替わりが旧約の終わりを示しています。イエスはさっそくご自分の弟子を呼び集められます。弟子たちはどのような気持ちでイエスに従ったのでしょうか。多少は現世的利益(偉くなる)のためだったようですが、イエスにつき従うことによってその気持ちが変わっていくのです。私たちが洗礼を受けてイエスに従う道を選んだのですが、最初の動機は何であれ、今はキリストに従うことが最善の道であることを理解しているでしょうか。使徒パウロが言うように私たちはこの世の有様から離れ、イエスのみに従うことが求められていることを理解しましょう。



早春賦の碑（長野県安曇野市）2022年1月

P.S

今日の午後、キリスト教一致地域合同祈禱会が行われます。会場は当教会です。できるだけ多くの方の参加を望みます。イエス・キリストを救い主と信じる方々と一緒に祈りを捧げ、世界平和のために心を合わせ祈りましょう。21日(日曜日)の午後2時半から4時までです。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光